



インバウンドと多文化共生による新しい地域づくり ～シンガポールセミナー 2019 in 下関市～

(一財)自治体国際化協会交流支援部交流親善課 主査 岩瀬 穂 (静岡市派遣)

海外自治体幹部交流協力セミナーは、クレア海外事務所管内の自治体等の幹部職員を招へいし、地方自治体の現場の視察や行政施策に関する意見交換などを行うプログラムです。今回、シンガポール事務所管内のカンボジア、インド、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、スリランカおよびタイの各国から9人が参加し、12月15日から21日までの期間、「インバウンドと多文化共生による新しい地域づくり」をテーマに、東京および下関市においてセミナーを開催しました。

日本の地方自治制度を学ぶ

はじめに、東京では日本の地方自治制度への共通理解を得るため、明治大学の木村俊介教授より日本の地方行財政制度について講義が行われました。参加者からは「日本の地方交付税は、財源の不均衡を調整するよい仕組みだ」、「地方政府がさらに県や市町村に分類され、効率的で規律正しいと感じた」などの感想があり、自国の制度と比較しながら、地方自治に関する新たな知見を得たようでした。

在留外国人の多い新宿区の取り組み

全国で最も在留外国人の数が多い東京都で、その人口が突出して多い新宿区。「しんじゅく多文化共生プラザ」では、外国人居住者に係る新宿区の取り組みや、日本人と外国人が相互理解を深める場として当該施設が行って



しんじゅく多文化共生プラザでの講義

いる活動について紹介を受けました。鍋島協太郎所長から「ここでは住民同士の交わりが少なく、相互理解が不足しているこ

とが課題」との発言があったことに対し、参加者は多民族社会である自国の背景を踏まえ、新宿区で実践している民族を超えた住民個人のつながりの強化や、異文化理解促進に向けたさまざまな企画が印象的だと感じたようでした。

日本のインバウンド推進戦略

日本のインバウンド事業を牽引する日本政府観光局(JNTO)では、伊東和宏市場横断プロモーション部長より、2020年までに訪日外客数4,000万人という政府目標を達成するための事業戦略や、海外事務所との連携活動、現在進めているゴルフやダイビング等のテーマに特化したツーリズムの強化策について紹介がありました。参加者からは、緊急災害時の対応や、データ収集・分析方法、事業の意思決定過程や今後の課題など幅広く質問があり、体系的に実施されている日本の観光戦略に感心していました。また、JNTOが運営する外国人案内所「JNTO ツーリスト・インフォメーション・センター」では、外国人旅行客への一般的な案内に加えて、祈祷室としても利用できる多目的ルームがあることや、防災施設としての機能、日本文化体験の提供等についての紹介を受け、参加者は豊富な観光コンテンツや旅行者の受入れ体制を知ることで、改めて日本が魅力的な destinations であると認識したようでした。



JNTOでの講義の様子

下関市セミナー

地方交流セミナーでは山口県下関市を訪れ、前田晋太郎下関市長をはじめ、市のみなさんから温かい歓迎を受

けました。訪問団の団長であるドナルド・セロナイ氏（フィリピンから参加）からは、受入れへの謝意が示されたほか、市の重点目標である「優しいまち実現事業」に深く感銘を受けたとの発言がありました。この後、下関市ではテーマに沿って関連施設の視察と意見交換を行いました。



前田下関市長への表敬訪問

全ての住民の暮らしを守る取り組み

下関市消防防災学習館「火消鯨」では、下関市で想定される災害や市民への情報提供システム、火災や救急要請時の体制・対応について説明を受けた後、英語字幕付き「防災シアター」の視聴や消火・煙避難訓練を体験しました。

また、山陽終末処理施設では、下水処理施設の概要、設備、処理過程について説明を受けました。参加者はこのような行政サービスの事例を知り、日本の自然災害に対する意識の高さに感心するとともに、特に下水道インフラについては、自国での整備が課題となっている参加者もいたことから、このセミナーを契機として、今後も日本から知見を得たいと考えているようでした。



下関市消防防災学習館「火消鯨」

下関市の豊かな観光資源を体験

続けて、下関市の観光地である長府藩所縁の「長府庭園」では、時代寸劇の鑑賞や、着物を着用した日本庭園散策といった文化体験も行いました。また、鎌倉時代に創建された国宝「功山寺仏殿」、安徳天皇所縁の「赤間神宮」等の施設訪問は、参加者にとって和の歴史や文化を感じられる印象的なひと時となりました。さらには、「死ぬまでに行きたい世界の絶景」に選ばれた「角島」では、参加者自身も写真を撮ってSNSへ投稿したり、また、「唐戸市場」では地域ならではの食材や賑わいを味わったりと、下関市の魅力を存分に体感し、参加者は

「歴史文化も自然も感じられる下関市は旅先として完璧だ」と感想を述べました。一方で、このような人気の観光地の保安全管理状況についても学ぶため、NPO法人コバルトブルー下関ライフセービングクラブの新名文博代表の協力のもと、「渚の交番」プロジェクトを通じた海の人命救助や環境保全活動等の地域活動についても説明を受け、市民参加型の地域マネジメントについても知見を深めました。



長府庭園で観光文化体験

セミナープログラムを終えて

セミナーの締めくくりとして、参加者と下関市職員が一堂に会し、テーマに沿った意見交換を行いました。インバウンドについて、下関市は多くの旅行者に選ばれる魅力的な観光地であり、その価値に手を加える必要はないとする意見がある一方で、ナイトライフツーリズムの推進や多言語表記、デジタル化の強化など観光客目線の率直な提案もなされました。

また、下関市の多文化共生について、参加者からは各国のそれぞれの民族構成や社会背景がありながらも、個人としての交わりの重要性や、特定の民族が集団化せず色々な国の人びとが触れ合うこと、また、各民族に対して公平に取り扱うことの大切さなどを述べました。

最後に、下関市国際課の安部隆課長からは、「日本が少子高齢化を迎えているなかで、今後は東南アジア諸国も含めた外国の方々による地域の担い手が重要だと感じており、今後は多文化共生政策にも力を入れていきたい。今回のセミナーで得た参加者からの意見や情報を参考にしたい」と総括されました。

今回のセミナーでは、参加者が日本の地方自治体の取り組みを知る機会となっただけでなく、受入れ自治体にとっても新しいアイデアを得ることができ、双方にとって有意義なものであったと思います。本セミナーをきっかけに、東南アジア諸国との地方交流がますます拡大・深化することを期待しています。